



～エコな取り組み～

「ほろきたミニミニ雪まつり」

学生の地域で考えるまちづくり会 代表 ^{ひらの} 平野あゆみ

「とってもきれいだね」「すごく楽しかったよ」と毎回喜びの声が多く寄せられる『ほろきたミニミニ雪まつり』。3回目となる今回は、エコな取り組みとして、廃油を再利用してできるキャンドルや小学生とのワークショップで作ったペットボトルキャンドルを飾りました。

キャンドルを灯し、幌北の冬の恒例イベントとして定着しつつある『ミニミニ雪まつり』。大きな雪だるまをつくったり、雪山からそりで滑ったり。雪の降る冬ならではの遊びを、子どもから大人まで楽しんでいました。しかし今年は、それまで雪遊び場として利用していた空き地が駐車場に変わってしまったことで、例年通りには出来なくなり、今回は会館内も利用してイベントを行おうということになりました。ただ遊ぶだけではなく、学んで帰れるものかと考えていたところに、1月から幌北まちづくりセンターで使用済み食用油的回収が始まることになりました。



使用済み食用油的の回収が始まりました(左、北区长)

回収する使用済み食用油を使って、身近で手軽にエコ活動ができるのではないかと思いつきました。そしてできればミニミニ雪まつりで活用したい。そう考えて情報収集していると、なんと廃油を使ってキャンドルができるというではありませんか。しかし、残念なことに作り方を知っている人が誰もいませんでした。

そこで、幌北地区の夏まつりで一緒にエコ活動に取り組んでいる『環境NGO ezorock(エゾロック)』さんの協力を得て、廃油を使ったキャンドル作りの講習会を開催しました。



きれいに固まるかな？(廃油キャンドル講習会)

油をあたため、クレヨンで色づけをし、凝固材を入れたのち容器に移し固めるといった手順です。さまざまな色を使うことで、見ているだけでも楽しいキャンドルになりました。思っていたよりも簡単に出来たことに、みんな驚いていました。これならば、雪まつりに参加してくれた子どもたちやそのお父さんお母さんも楽しく作業できて、家庭でも実践してもらえるのではないかと。こうして、実際にミニミニ雪まつりで廃油キャンドル体験コーナーを設けて、地域の方々に廃油の活用の仕方を広めることに決めました。



廃油で作ったキャンドル

今回実践した身近なエコ活動はそれだけではありません。

幌北小学校で4年生とのワークショップを行い、ペットボトルを利用したキャンドルを作りました。これは、飲み終わったペットボトルを捨てるのではなく、自分たちできれいに飾りつけすることで愛着をもってもらい、『ゴミは使い方次第で生まれ変わる』ということを知ってもらおうというのがねらいです。さらに、そのペットボトルキャンドルが「ミニミニ雪まつり」という地域のイベントで飾られ、自分たちの住む幌北の夜を彩るということで、自分も地域の行事に参加し、幌北のまちづくりの一端を担っているという意識を持ってもらうことも重要なポイントでした。

透明のペットボトルに、みんなそれぞれに和紙やセロハンを貼りつけ、自分好みにデコレーションしていきます。大胆な色遣いをしているもの、繊細な切り絵を貼り付けているものなど、個性あふれる作品が出来上がりました。最後には部屋を暗くして点灯し、方々から『わあーキレイ!!』『すごい!』といった歓声があがりました。アイデアひとつでこんな素晴らしいインテリアに生まれ変わるのだとみんなに実感してもらえたことでしょう。



ペットボトルキャンドル作り



火を灯しました。とてもきれいです

ミニミニ雪まつり当日

そうして迎えたミニミニ雪まつり当日。会館内に展示してあった廃油キャンドルやペットボトルキャンドルを見ると『どうやってつくるの!?!』『作ってみたい!!』と興味津々の様子でした。ここでも、自分で納得のいく作品に仕上げるべく、熱心に作業していました。

会館の外では、毎回大学生たちで大きな雪だるまを作るのですが、今回は、クマのような耳をつけた『ゆきだるマン』を制作しました。それだけなので胴体部分にはハート型にかたどってライトを埋め込みました。通りすぎる人たちも『うわあ、かわいい



ペットボトルキャンドル体験